

# スタンド喜び爆発



## 活躍たたえ「夢のよう」

### 秋季東北高校野球V光星センバツ確実

秋田市こまちスタジアムで18日行われた秋季東北地区高校野球大会決勝は、青森第1代表の八学光星が5年ぶり5度目の優勝を懸けて盛岡大付(岩手第1)と対戦。スタンドには部員約30人や父母ら約20人が応援に駆け付け、メガホンを片手に熱い声援を送った。接戦を制して来春のセンバツ出場を確実のものにし、11月の明治神宮野球大会の出場権も獲得。グラウンドで戦ったナインだけでなく、スタンドも勝利の喜びであふれた。

【1ページに本記】

◇ ◇ ◇  
試合は初回、両チームが2点ずつ取った後、六回までスコアボードに0が並ぶ膠着状態が続いた。……  
スタンドからナインに熱い声援を送る部員たち。18日、秋田市こまちスタジアム

状態となったが、スタンドでは勝利を信じて応援を必死に続け、ナインのプレーを後押しした。

そんな祈りが通じたのか、終盤の七回には敵失絡みで2点加わり、九回にダメ押しの一点が入ると、最高潮の盛り上がり。七回に1死満塁のピンチを併殺で切り抜けた場面でも一斉に総立ちとなってナインたちを鼓舞した。

徳島県から駆け付けた、武岡龍世主将の父・克明さん(49)は「東北大会で優勝して神宮に行けるなんて夢のようだ」と息子やナインたちを絶賛。攻守で活躍を見せた下山昂大選手(48)の母・幸子さん(48)は「努力したことが結果として出ていると思う」と活躍をたたえた。

控えの部員たちも「頑張れ」「気を抜くな」と最後まで声を掛け続け、試合終了後はナインたちと一緒に校歌を歌い上げた。

応援団長の2年山市敦也さん(47)は「優勝できてうれしい。選手がチーム一丸になって戦っていて良かった」と笑顔。「全国で戦うために、部員全員でもっとレベルを上げていきたい」と力を込めた。(中山瑞希)